

行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	安心・安全な低騒音社会を目指した騒音対策の推進		事業開始年度	平成21年度		作成責任者
担当部局庁	水・大気環境局		担当課室	大気生活環境室		大気生活環境室長 土居 健太郎
会計区分	一般会計		上位政策	大気・水・土壌環境等の保全		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	「騒音規制法の規制対象施設の在り方について(第二次答申)」(平成21年6月) 「騒音の評価手法等の在り方について(答申)」(平成10年5月)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	騒音に係る社会的状況、国際的な動向を踏まえ、睡眠影響を含めた騒音による健康影響の実態把握、騒音ラベリング制度等の情報的手法による低騒音化の方策及び騒音マッピング制度の活用方策の検討等を通して、低騒音社会の実現に向けた施策を推進する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音の健康影響を検討するための知見の収集 ・騒音規制法の規制対象施設等の低騒音化に向けた、騒音ラベリングや設置ガイドライン等の情報的手法に関する検討 ・騒音マッピング制度に関する検討 					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・EUやWHOによる騒音に係る新たなガイドラインの策定、首都圏空港の24時間化等を背景とし、騒音の睡眠影響評価手法を確立するための予備的実験の実施、睡眠評価手法の可能性に関する情報収集等を行った。検討にあたっては、有識者7名による検討会を4回行った。 ・平成21年6月に、中央環境審議会の答申「騒音規制法の規制対象施設の在り方について(第二次答申)」において、騒音ラベリング制度等の規制以外の手法について検討することが適当であるとされたことを受け、地方公共団体に対するヒアリング等を行い、騒音ラベリング制度をはじめとする情報的手法について検討した。検討にあたっては、有識者による検討会を運営し、研究者、業界、行政担当者の意見を踏まえ、技術的検討及び制度的検討を行った。技術的検討については有識者12名による検討会を、制度的検討については8名による検討会をそれぞれ4回行った。 ・EU各国で行われている、騒音マップの活用等による低騒音社会の実現に向けた検討を行った。検討にあたっては、各音源からの騒音予測及び評価手法について、既存の文献等を収集・整理したほか、騒音マップの技術的基盤及び情報の基盤について整理するため、有識者11名による検討会を4回行った。 					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)			22	16	0
	執行額			22		
	執行率			100.0%		
	総事業費(執行ベース)			22		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	それぞれの被験者実験、検討会等の開催にあたっては、事前に環境省担当官が請負者と十分に協議を行った。また、当該検討会等には、環境省担当官も出席しており、適切に業務が履行されたことを確認している。				
	見直しの余地	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音ラベリング及び騒音マッピングの検討にあたっては、他省庁の関連部局等との調整が必要な案件も多く、制度化には当該施策を導入することのインセンティブ等についてさらに検討することが必要。 ・騒音の睡眠影響に関しては、少数の被験者を対象とした予備的研究の後、多数の被験者を対象とした実験を行い、我が国における騒音に係る睡眠影響の知見を充実させ、環境基準等の策定に資する成果を蓄積することが必要。 				
化予 算 監 視 の 効 率	抜本的改善 (事業目的が同一であるシート番号62「騒音・振動による不快感等の実態把握・規制手法等の検討」と統合し、より効率的・効果的な事業実施に努めるべき。)					
補記						

環境省
22百万円

- ・他省庁との調整
- ・外部有識者による検討会等への出席

【総合評価入札】

A.(社)日本騒音制御工学会
12百万円

- ・騒音の睡眠影響の評価手法に関する検討
- ・有識者による検討会の運営
- ・騒音マッピングの検討
- ・騒音測定方法等の技術的検討
- ・各業界団体の騒音測定方法等に関する資料収集・整理

【随意契約(企画競争)】

B.(社)環境情報科学センター
10百万円

- ・既存のラベリング制度等の情報整理
- ・地方公共団体に対するヒアリング実施
- ・有識者による検討会の運営

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A.(社)日本騒音制御工学会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	低騒音社会を目指した騒音対策の推進に関する検討調査業務	12			
計		12	計		0
B.(社)環境情報科学センター			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	騒音ラベリング制度の制度設計・運用に係る検討調査業務	10			
計		10	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0